柏の葉データプラットフォーム　データ倫理原則

Ethical Principles of KASHIWA-NO-HA Data Platform

柏の葉スマートシティの目標

○柏の葉スマートシティは人口減少や少子高齢化、環境・エネルギーなど様々な社会課題の解決およびテクノロジーの発展に対応した、豊かなライフスタイルの実現を目標としています。地域社会に必要な公的サービスを担う『公』、地域の活力と魅力の向上を担う『民』、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う『学』の各主体が積極的に連携する柏の葉のポテンシャルを十二分に活用し、目標を実現していきます。
○柏の葉での上述の取り組みから、柏の葉のみならず日本および世界の発展に寄与します。

柏の葉データプラットフォーム構築の背景

○データの利活用は、人々のより豊かなライフスタイルの実現、産業の発展および科学技術の進化のために必要不可欠と考えています。街づくりに関わるステークホルダーがデータを安全に利活用できる環境を整え、その環境のもと、新しい価値を創造し、その価値により人々の暮らしがより豊かになる。これらのことが、これからの社会の発展に必要であるという想いから、柏の葉データプラットフォームを構築しました。

柏の葉データプラットフォーム　データ倫理原則

上記の趣旨に照らし、街づくりに関わるステークホルダーが適切に行動をすることにより、恩恵を受けることが重要である。そのため以下のとおり倫理原則を定める。
○データ倫理原則とは、柏の葉データプラットフォーム（以下、「KDPF」という）において判断や合意形成を行う際に指針となる考え方である。

目的

KDPFの目的は、データを適正に利活用することにより、「生活者のより豊かなライフスタイルの実現」「産業の発展」「人類の技術および学問の進化」を達成することである。KDPFのステークホルダー（サービスを利用する生活者、サービスを提供する企業等、データを利活用する学術機関等）はともに目的達成を目指し、互いの権利を尊重し、互いにとって利益がもたらされるよう努めることを原則とする。

データ流通基盤

KDPFでは上述の目的を達成するため安全にデータ流通を行える基盤を整備した。その基盤を含むKDPFは社会インフラであるため、長期的かつ安定的に維持されることが原則である。

データの帰属

KDPFは社会インフラであるため、それ自体ではデータを必要以上に取得・保有しない。またデータはKDPFの各ステークホルダーの権利を尊重し、適正に利活用できるようにする。

データの個人主権

KDPFにおいて取得された個人データについて、当該個人は、その個人データ利活用の可否に係る意思決定権を有する。また個人データの取扱いに関しては、当該個人の権利を尊重して適正に扱われるものとする。

三方良しの原則

KDPFは「サービスを利用する生活者」「サービスを提供する企業等およびデータを利活用する学術機関等」「地域社会」の「三方良し」を提供する。

UDCKTM
UDCKタウンマネジメント

KASHIWA-NO-HA